

令和 6年度

事務事業評価表 (令和 5年度 の実績評価)

記入年月日
令和 6 年 4 月 1 日

事務事業名		スポーツ協会助成事業		事業区分		担当	
				新規/継続	継続	事務事業No.	020403000098
政策体系	政策体系上の位置付け			単独/補助	単独	所属課	090501
	総合計画の施策名	0204	生涯スポーツ活動の振興				スポーツ振興課
	政策名	02	生きがいを育む学びのまちづくり			課長名	
	施策名	04	生涯スポーツ活動の振興			グループ	スポーツ振興G
	手段名	03	③スポーツ団体の支援とリーダーの育成			担当者名	
財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計
	01	10	06	01	02	00	保健体育総務事業
法令根拠	スポーツ基本法、桜川市体育協会補助金交付要項			単年度繰返し（平成17年度～）			
				期間限定の場合、総投入量を（3）投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

手段	①事務事業の概要（事務事業の全体像） ○スポーツ協会は、主催事業、各専門部の練習、競技会などを行う事により、広く市民各層にわたるスポーツ人口の増加と技術の向上を図り、生涯スポーツの推進、市民の健康増進へ寄与することを目的として活動する団体である。この目的を達成するため、各専門部をとりまとめ、育成強化を図るものである。 ○令和5年4月1日現在会員数：25団体2,247名 ○（団体）軟式野球・ソフトボール・テニス・ソフトテニス・一般バレーボール・バスケットボール・サッカー・柔道・剣道・空手道・沖縄武道・スキー・バドミントン・ゴルフ・陸上・ママさんバレーボール・ビーチボールバレー・太極拳・ターゲットバードゴルフ・ソフトバレー・スイミング・杖道・スポーツ吹矢・スマイルクラブ・スポーツ指導者協議会					②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 【事業費の内訳】 市補助金 3,800,000円 ・各団体（25団体）への補助金助成・「ふれあいウォーク桜川」実施・全国大会等出場者への支援・研修会実施・さくらマラソン大会協力 等 【担当者が行う業務の手順】 ・県スポーツ協会及び市への補助金申請、実績報告・会議資料作成・関係者への会議案内等文書送付・スポーツ協会主催事業募集及び参加者取りまとめ・県スポーツ協会との連絡調整等・専門部への助成金交付・研修会開催等				
	(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移									
	①手段（担当者の活動内容）		④活動指標（活動量を表す指標）		単位	04年度 （実績）	05年度 （実績）	06年度 （計画）	07年度 （目標）	08年度 （目標）
県スポーツ協会及び市への補助金申請・実績報告、スポーツ協会主催事業募集及び参加者取りまとめ、県スポーツ協会との連絡調整等、専門部への助成金交付、研修会開催		スポーツ協会加盟団体数		団体	27.00	25.00	25.00	25.00	25.00	
		スポーツ協会加盟団体会員数		人	2,493.00	2,247.00	2,400.00	2,400.00	2,400.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
②対象（誰、何を対象にしているのか）		⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）		単位	04年度 （実績）	05年度 （実績）	06年度 （計画）	07年度 （目標）	08年度 （目標）	
スポーツ協会加盟団体会員 市民		桜川市人口		人	37,653.00	36,794.00	36,647.00	36,500.00	35,897.00	
		スポーツ協会主催事業計画		回	4.00	4.00	6.00	6.00	6.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）		⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）		単位	04年度 （実績）	05年度 （実績）	06年度 （計画）	07年度 （目標）	08年度 （目標）	
スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活を送る。		スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている割合		%	57.30	57.30	57.30	57.30	57.30	
		スポーツ協会主催事業		回	2.00	4.00	6.00	6.00	6.00	
					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(3) 投入量（事業費）の推移				04年度 （実績）	05年度 （実績）	06年度 （計画）	07年度 （目標）	08年度 （目標）	期間限定 総投入量	
投入量	事業費内訳	国庫支出金	千円	0	0	0				
		県支出金	千円	0	0	0				
		地方債	千円	0	0	0				
		使用料・手数料	千円	0	0	0				
		その他	千円	0	0	0				
		一般財源	千円	3,800	3,800	3,800				
		事業費計（A）	千円	3,800	3,800	3,800				
		正規職員従事人数	人	3.00人	3.00人	3.00人				
事業費の内訳	05年度事業費 実績（千円）				06年度事業費 予算（千円）					
	18 負担金補助及び交付金	3,800			18 負担金補助及び交付金	3,800				
合 計				3,800			合 計	3,800		
(4) 当該年度の実施内容		06年度の事業内容		07年度の事業内容		08年度の事業内容				
※年度ごとに事業内容を記入する		・各団体（25団体）への補助金助成・「ふれあいウォーク桜川」実施・全国大会等出場者への支援・研修会実施・さくらマラソン大会協力 等		・各団体（25団体）への補助金助成・「ふれあいウォーク桜川」実施・全国大会等出場者への支援・研修会実施・さくらマラソン大会協力 等		・各団体（25団体）への補助金助成・「ふれあいウォーク桜川」実施・全国大会等出場者への支援・研修会実施・さくらマラソン大会協力 等				

事務事業名	スポーツ協会助成事業	事務事業No.	20403000098	所属課	スポーツ振興課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
・平成17年12月に発足。旧3町村が合併して桜川市になったことに伴い、旧町村にそれぞれあった体育協会が桜川市体育協会として一本化した。 ・少子高齢化や余暇時間の楽しみ方が多様化し、会員が減少傾向にある。 ・傾向が競技型志向から健康志向に変わってきた。（国・県において総合型地域スポーツクラブ活動の提唱）					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
・スポーツ施設の充実を図って欲しい。 ・活動している内容や施設の利用等について、分かり易くPRや広報活動をして欲しい。 ・人材発掘、指導者への研修の機会。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
改 善 改 善 を 行 う	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）
	☒ 結びついている スポーツ人口の増大と技術の向上を図り、生涯スポーツの推進、市民の健康増進へ寄与する事を目的とする活動（意図）は、会員がスポーツを通じて健康で明るい豊かな生活を送るという結果に結びついている。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）
	☒ 妥当である 市民がスポーツに親しむための受け皿になっており、会員や主催事業に参加した市民がその活動により、上記の意図、結果を生んでいく契機となっているため、妥当である。
有 効 性	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）
	☒ 向上余地がある 研修会の開催、各競技団体における大会の開催、市民を対象とした「ふれあいウォーク桜川」の開催等成果は上がってきているが、さらに市民がスポーツをする機会を増やすため、各専門部の活動内容を広報等で周知していく必要がある。
	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）
	☒ 影響有 ・活動の場が減少することにより、運動やスポーツに親しむ機会が失われる。 ・研修会や講習会の機会が失われることにより、人材育成や指導者養成が妨げられる。 ・各個人の費用負担が増えることにより、活動の停滞につながる。
効 率 性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合）⇒
	☒ 余地がない 具体的な手段、事務事業名 スポーツ推進委員運営事業・スポーツ育成助成事業
	☒ 余地がない 公的な組織として、他にスポーツ少年団・スポーツ推進委員会等があり、これらの団体と連携して事業を行っている。
	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）
公 平 性	☒ 削減余地がない 現在の厳しい社会情勢の中、会員数が減少傾向にあり、活動費の確保にも一人ひとりの経済的な負担が大きくなり、活動の停滞を招きかねない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）
☒ 公正・公平である 市施設の減免規則の改正により、従来各専門部の大会開催時に使用料が全額免除だったのが、半額減免となる。一般利用者との費用負担の公平性が図られていく事になると思われる。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																						
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一部の大会が実施できないなどの活動の制限がされた状況にあったが、国の新型コロナウイルス感染症ガイドラインにより条件付きの大会がされるなど活動が徐々に以前の状況に戻りつつある。 今後についても、ふれあいウォーク以外にも事業を実施することで市民のスポーツを行う機会の増加が期待できる。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 （終了・廃止・休止の場合は記入不要）																						
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☐ 現状維持 ☐ 廃止 ☐ 休止		（複数回答可） ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☒ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 事業を行い市民がスポーツを行う機会を増やす。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成 果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成 果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成 果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果 ☒ ①																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 ☒ B A：継続（現状維持） B：継続（改革改善を行う） C：終了、廃止、休止 D：2次評価へ提出	確認欄 ☐